

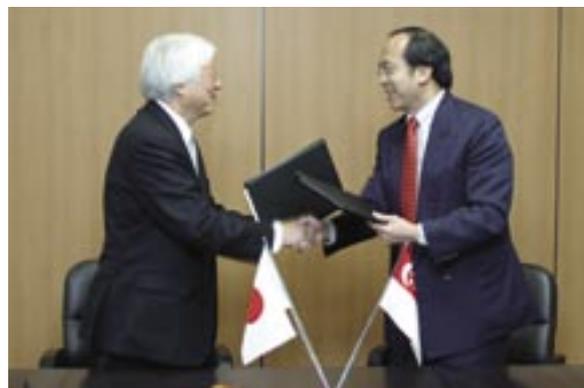
シンガポール A*STAR と産総研、包括的協力協定を締結

2004年10月19日、シンガポールの中核的研究機関 Agency for Science, Technology and Research (A*STAR) と産総研は包括的協力協定を締結、人的交流、情報交換、ワークショップの開催、共同研究などを目的として協力していくことで合意しました。

A*STARは、バイオ、IT、材料など幅広い分野をカバーする12の研究所を所管していると同時に、政府の科学技術政策の立案や科学技術予算の配分を所掌し、シンガポールの産業科学技術を支える中心的役割を果たしています。産総研としても、アジアでの研究連携の戦略を考える上でA*STARは欠くことのできない存在です。

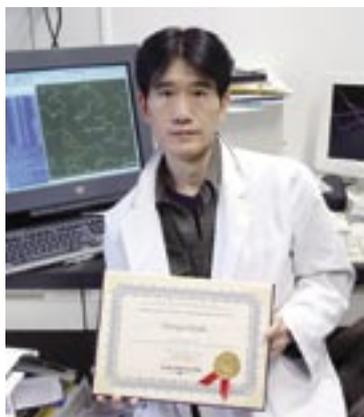
A*STARのManaging Director、BOON Swan Foo氏は産総研運営諮問委員会のメンバーでもあり（産総研の

吉川弘之理事長がA*STARのボードメンバー）、BOON氏が今年度の運営諮問会議のために来日した機会に、産総研つくばセンターにて協定調印式を行いました。



生物情報解析研究センター岡田哲二主任研究員が「リサーチフロント」を受賞

2004年11月2日、トムソンサイエンティフィック社が提唱する世界の最先端研究領域（「リサーチフロント」と呼称）をリードする日本人研究者を表彰するためのシン



ポジウムにおいて、同社データベースを使用し、発表した論文がどれだけ共引用されたかなどの指標を用いて、13のリサーチフロントと特に顕著な功績をあげている日本人16名が選出されました。産総研からは生物情報解析センター機能構造解析チームの岡田哲二主任研究員がこの選考に入り、表彰されました。

岡田哲二主任研究員は、「ヒトゲノム中最大の膜蛋白質ファミリーの基本構造の解明」に多大の貢献があったことで今回の受賞となりました。なお、受賞対象となった執筆論文数は4、それらの総被引用数は1,100でした。また、最も引用された論文は、「Crystal structure of rhodopsin: A G protein-coupled receptor: Science 289 (5480),739-745」でした。

第31回国際福祉機器展H.C.R.2004 開催

2004年10月13日～15日の3日間、東京国際展示場において「第31回国際福祉機器展H.C.R.2004」が開催されました。出展社数645社（国内企業568社、海外企業77社）という日本で最大の福祉機器に関する展示会で、高齢者と障害者の自立と介護のための最新福祉機器の展示と、福祉機器利用のノウハウと開発に役立つ情報や福祉機器業界におけるビジネス情報の提供等を目的としており、今年は3日間合計138,726人の来場者がありました。

今年も、産総研と企業とが共同で開発した製品4点（人間福祉医用工学研究部門3点、エネルギー利用研究部門1点）、公設試験研究所と企業とが共同で開発した製品5点（北海道、秋田各1点、大阪3点）を展示しました。展示品

はいずれも多くの注目を集め、産総研の福祉技術に高い関心が寄せられていると感じました。



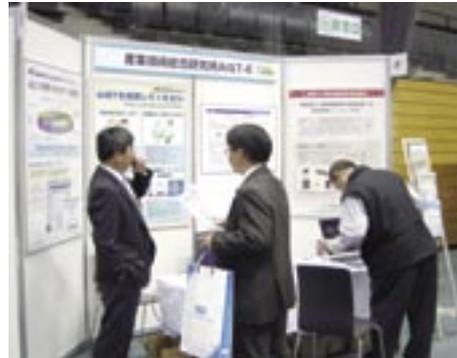
テクノフェア 2004 in つくば 開催

テクノフェア2004 inつくばが2004年10月19日から10月20日までの2日間にわたり、(財)茨城県中小企業振興公社・つくば市・つくば市商工会・つくば市筑波商工会・つくば市荖崎商工会の主催により、つくばカピオで開催されました。

産総研は、去年に引き続き支援団体として出展し、組織紹介・ホームページの紹介に加え、地域企業向け技術相談コーナーを開設しました。また、地域中小企業支援型研究開発事業の制度紹介と研究成果として金属系ミニチュア発電素子(電力エネルギー研究部門)を出展しました。

とりわけ、地域中小企業支援型開発制度については、

多くの来場者が強い関心を示していました。展示物への質問も数多く盛況なブースとなりました。



第4回AIST Workshop on LCA for APEC Member Economies 開催

2004年10月26～27日、つくば国際会議場「エポカル」において、産総研ライフサイクルアセスメント研究センター主催による、「AIST workshop on LCA for APEC Member Economies -Capacity Bulding in the Region-」が開催されました。今回は、第6回エコバランス国際会議が同時開催となりましたが、APEC及び近隣諸国のLCAの現状及び進捗状況についてのワークショップは、1998

年以來、これで4回目となります。

この会議には、ヨーロッパをはじめとして関連諸国19カ国から総勢50名の参加があり、2日間にわたるディスカッションが白熱しました。

産総研からは、各国のLCAに関する現状のアンケート集計結果の発表およびLCA普及の実情の紹介を行いました。続いて、国連環境計画(UNEP)やオランダ、ドイツなどからのLCAの普及の現状に関する講演があり、また、チリからのAPEC諸国への提案(ライフサイクルインベントリや、ライフサイクル思考などの定義の明確化必要性や、民間部門の参加の必要性)がされ、注目を集めました。

さらに、今後APEC 諸国メンバーらが中心となり、LCAを軸にどのような協力体制をとっていくべきかについて、活発な議論が行われました。



産総研テクノショップin九州 ～使えるバイオテクノロジー～ 開催

「産総研テクノショップ in九州」が、2004年11月2日に福岡市のアクロス福岡において、産総研の開発した技術紹介を行う目的で開催されました。第1回の今回は、すぐに役立つ、実用に供される可能性の大きいバイオテクノロジー技術の紹介を行いました。企業、大学を中心に100名を超える参加者がありました。

守谷産学官連携コーディネータの「産総研におけるバイオテクノロジー研究について」を皮切りに7件のバイオ研究の紹介が行われました。会場では活発な質疑応答が行われ、産総研のバイオ技術に関して来場者の関心の高さがうかがえました。さらに、個別相談会を設け参加者が興味を持った技術について、共同研究、委託研究等の相談にその場で応じ、相談のいくつかについては、引

き続き協議することになりました。今後も年1回この催しを開催し、九州地区における産総研各分野の研究紹介と技術移転を推進する場にする予定です。



四国センター一般公開 報告

四国センターでは、2004年10月30日に「覗いてください、日本一の公的研究所の四国拠点を」をテーマに一般公開を行いました。今回は主に小学生に科学の不思議さや面白さを体験してもらえるように2年ぶりに「体験型サイエンスショー」を行いました。

同実験ショーには周辺の小学校等から保護者を含め333名の参加があり、会場の講堂が超満員になる人気で、改めてサイエンス実験ショーの魅力を感じ知らされた1日でした。

今後も、このような催しに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、その他おもしろ体験「ストローガーネット」のコーナーでは、用意した100人分の材料が午前中にすべて無くなってしまい、午後には終了せざるを得ないというほどの人気となりました。台風23号の爪痕に加え、朝から小雨降るあいにくの天気でしたが、絶えることなく続々と詰めかけた入場者数は550人に達し、近年一番の盛況となりました。



中国センター一般公開 報告

中国センターでは、2004年11月12日に、毎年恒例の一般公開を行いました。秋の爽やかな好天に恵まれ、平日にもかかわらず1000名を超える方々にご来場頂きました。

今回の一般公開では、世界最大級の瀬戸内海巨大模型（幅230メートル）が見学の目玉となりました。自分達の住む地域の海底地形を真剣に見入ったり、模型にピンポン玉を浮かべて水の流れを観察したりしていました。

また、宇宙飛行士 毛利衛さんがスペースシャトル内で実験を行った際に指導を担当した、牧原正記氏を招いて

の、「無重力を体感しよう」と題した体験型実験室では、3回で延べ450名が参加しました。クイズに正解すれば賞品がもらえるとあって、参加した小学生の「ハイハイ！」と手を挙げる元気な声が、所内中に響きわたっていました。

さらに、アザラシ型ロボット「パロ」と触れあうコーナーや、呉市との共催による市民科学技術セミナー「まさこお姉さんのおもしろサイエンス実験ショー」、「木から水素を作る巨大装置をみてみよう」、「植物の元気薬で地球に元気」など、様々な催しを開きました。



平成 16 年秋の叙勲

平成 16 年 11 月 3 日付けをもって、以下の方が叙勲されることになりました。

瑞宝双光章 有山 秀男
元工業技術院総務部筑波管理事務所次長

瑞宝中綬章 中山 勝矢
元中国工業技術試験所長

瑞宝双光章 加藤 忠志
元九州工業技術試験所総務課長

瑞宝双光章 花島 長敏
元北海道工業技術研究所総務部長

瑞宝双光章 小林 良生
元四国工業技術試験所材料開発部長

瑞宝小綬章 前河 涌典
元北海道工業開発試験所資源エネルギー工学部長